



有田市消防の とある1日



午前8時30分／勤務交代で長い一日がスタートする！

まずは、車両点検…赤色灯・サイレンのチェック色々な資器材も正常に動かすチェックします。



午後1時／消防士は現場活動だけでなく、事務も行います。パソコンに向かって事務をしていると…

救急指令、救急指令！！

すぐさま、救急車に駆け込み現場へ出動！

無線から「心肺停止状態」との情報が入り、現場では家族の方が応急手当を行っているとのこと。

現場に到着すると、涙ながらに応急手当を行っている家族の姿が！



すぐに救急隊で患者を観察したところ、脈も呼吸もありません。現場で電気ショックを行い、点滴をしながら病院へ向け出発。幸い脈と呼吸が戻り、病院へ着くころには、意識も取り戻し、家族も救急隊も安堵の表情。家族の方の応急手当がなく、放置されてしまっていたらと思うと、ゾッとします。応急手当の大切さを改めて実感しながら、消防署に戻り、救急車内や使った器具の洗浄を行います。



午後6時／そうこうしていると時間はもう午後6時。休憩時間に走ったり筋トレをしたり…。夕食をとって、昼に出来なかった事務仕事をします。



午後10時／シャワーを浴びようと服を脱いでいると…

火災指令、火災指令！！

すぐに防火衣を着て、消防車に飛び乗ります。

現場に着くと、逃げ遅れた人が居るとの情報！救助隊がポンペを担ぎ煙の中へ進入。無事救助し、火災も消えました。



午前1時／これから、119番通報の受付業務。夜中に2時間交替で119番通報を取ります。



午前3時／仮眠に入ります。



午前6時30分／眠たい目をこすりながら、交代する人に気持ちよく仕事をしてもらうため、消防庁舎の掃除や無線のテストを行います。



午前8時30分／長い24時間勤務が終了。帰れるとおもいきや…昨日の火災の原因調査に。火災は消して終わりではありません。原因を調査するのも消防の仕事。このように、非番に仕事をする事もしばしばあります。



午前11時／いまから家に帰って家族サービスです！



地域の安全を 守るために



▲救急車要請の連絡を受けている様子



▲救急車に運んだ患者の状態を把握している様子

▲山で被災した想定で救出訓練をしている様子

119番通報を受けた時、受話器の向こうでは緊迫した現場であることが容易に想像できます。消防・救急隊員は、いち早く現場に行き、冷静にそして迅速に活動する必要があり、隊員たちはどんな状況でも対処できるよう日々訓練を重ねています。一人の命を救うため、消防・救急隊員は一つのチームとして、「市民の生命・身体・財産を守る」を合言葉に業務を遂行しています。

救急車が必要なとき…それは突然おとずれます！

救急隊は傷病者に適切な処置を施し、迅速に医療機関へ搬送しなければなりません。そのためには、生命に危険を及ぼす病気や怪我の知識を深めたり、処置が少しでも早く施せるよう、日々訓練に努めています。その中でも特に力を入れて取り組んでいるのが、意識・呼吸・脈拍のない心肺停止の患者に対する処置です。私たち救急隊は、3名で1つのチームを編成しており、助かる可能性を少しでも高くするため、口の中にチューブを入れ、肺に確実に酸素を送れるようにしたり、点滴を行いアドレナリンという強心剤を使用したりと、状況にあった処置を施します。そして、1秒でも早く病院へ向かうためには、現場で活動する人数を増やすことで、より迅速な処置が可能となります。例えば、救急車の向きを変える事でさえも、1分1秒を争う現場では非常に重要な業務となります。

そこで、119番通報時に、「意識がない」「呼吸がない」といった、心肺停止が考えられる救急要請があった場合は、救急車以外に消防車にも隊員が乗り込み同時出動し処置にあたります。消防では、火災などの業務もありますが、このような緊急事態には、市民の生命・身体を守るために、チーム一丸となって活動します。

命を救えるのは、救急隊員だけではありません

しかし、救急現場で患者の命を救えるのは、救急隊や医師だけではありません。救急隊が到着するまでの間は、その現場にいる市民の皆さんにも応急手当などをしていただきたいのです。救急車が到着するまでの間、何らかの応急手当を施すだけで、患者の生存率は極めて高くなるのです。

有田市消防本部では正しく応急手当をしていただけるように、一般市民や事業所などから要望があれば、救急講習を開催しています。応急手当の方法を学ぶことで、各家庭で起きるような怪我や病気に関するトラブルに対処することができます。また、119番通報時に緊急性が極めて高いと判断した場合、電話越しに応急手当の方法をお伝えし、現場にいる市民の方に行っていたことがあります。

市民の皆様には、いざという時に迅速な応急手当を行い、大切な人の命を繋ぎ止めるために、是非救急講習の受講をお願い致します。

問 消防本部救急係TEL 83-0119